夕刊
十二月二十一日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番

教育家根性と親心（下）
——受驗準備是非の問題——
ケイ・ユウ生

三

小學校長としては、父兄からのたのみがあり、人情として、『あなたの子供は駄目です』とは云ひ切れず無理とは知りながら、子供の頭にあはない學校を選ばせるやうになる

教師として見ると、『昨年はどの學校へ何人、どの學校べ何人入つた、本年は何人多い』と云ふことによつて、數字的な成績によう自分の名譽心を滿足させたい、それが父兄の受けよくし校長の信用を得る一つの方法となるのである

校長にしても、本校からは『何人』中學校へ入れたと云ふ誇りを他校へも示したい、これが學校の價値を社會や學務委員等に示す一番具體的方法である

この教師、學校の無理は教育家として陷り易いところであつて教育者根性とでも云ふのであらう

四

親心の無理と教育家の無理、無理と無理とで固つてゐるのが入學準備である。入學試驗問題については教育者のみをせめることは可哀さうである、父兄も目先の見榮を捨てゝ子供の將來と云ふ大きなところに目をつけて、子供の能力、體質、長所、短所、家庭經濟狀態等から無理のないやうな學校を選ぶ可きである

親自身の見榮のために子供の將來を暗くすることは子供のために惡いことである、上の學校へ入學したのはよいが入學すると同時に氣の毒な身になつた子供のことをあまりにも澤山見せつけられてゐる

家庭が子供を知り、學校が教育家根性を捨てたなら試驗地獄問題も最少し緩和されるのではなからうか

喫氷
秋雲　小野務亭

大水西流炎尚殘
滿身何耐汗溥々
松窓移榻頻置子
一喫氷漿體始安

12月22日
△小野篁歿（仁壽二）△大燈國師寂（延元二）△内閣の制を定む（明治一八）△議院調査會總會で議會召集期變更豫算審議期間延長の答申案可決（昭和一二）

平局俳黎會　十二月句會（二）

故郷の驛は遠く時雨けり　臙子
短日の山昏れ殘りそゝり立つ　碧笑
山茶花やこぼれ／＼て日の盛き
時雨るゝや刈田の雀ちり／＼に
山茶花の木の間がくれの御堂かな　孤泉
[illegible]見の初めて

新年短歌俳句募集

一、題　イ、新年雜詠　ロ、寅に因めるもの
數隨意、但し歌俳を別紙に認めること
一、締切、十二月二十五日

講談　悲戀　髑髏組（どくろぐみ）　(75)
林杢兵衛作　金子士郎畫
奇遇（一）

（あの純真さ、しかも可憐じあつたお峰、それが東海道を股にかけて、宿場々々を戰慄させた黒猫お峰……どうしても信じられない。だが、石藥師延命院發で、自分を狙擊した女の動作擧動を考へると、うなづかれぬこともない。策謀師の一味に與して、横縞の道を踏んできたお峰。しかも自分はそのお峰のために、二人まで人を殺さねばならぬ程愛し合つてゐた幾代のことも忘れ、遠大な望みも打捨てゝ、夢のやうに過して來たと上に、現在此の大江戸に五尺の身體の置どころもない尋ねものになつて仕舞つた

流轉輪廻の怖ろしさを沁々と感じられ、同時に自分自身を『馬鹿めッ？』と、云つて見たいやうな氣もする

だが、狙ひ直して見るまでもない峰を惜めない刑部だ

（何も彼も運命と諦めなければならない）

幻想を追ふて、無意識に歩みを運んでゐると、背後から忍び足に近づく者の氣配がした。草にも木にも心置く身の刑部は、思はずハッとして我に返つた

それは一挺の駕籠だつた

刑部は、其の駕籠をやり過す積りで、顔を川側の方へ外向てゐる

（こんな場合によくある手段、普通の駕籠屋と見せかけて、御用と十手を振込む捕物もあるから油斷はならない）

刑部は、素破と云へば、直ぐ拔打ちの妙手を振ふだけに氣構へてゐる

果して、駕籠屋は、刑部の眞後でハタと立ち止まつた

『旦那……』

『……』

刑部は、默つて左手に柄頭を握つた

『戻り駕籠で御座いやす。お安く參りやせう』

その聲で云ひ、また言葉訛が、まだ刑部の耳の底の何處やらにこびりついてゐる。だがどうしても思ひ出せない

（黄房の源七——ぢやアない。矢の倉茂十——でなけて誰か？）

充分に警戒をしながら、刑部は靜かに見返つた。

ばつたり逢つた視線

『あッ！ いけねえ』

刑部よりも、驚いたのは駕籠屋の方だ。忽ち踵を返して逃げやうとするのを

『待てッ！ 貴樣達だつたのか』

と、呼止めた刑部

『うへッ！ 旦那誠にどうも何とも……』

駕籠屋は勘太と小六だつた

『待て！ 何故逃げる？』

『そ、それが、ま、まつたくどうも、旦那に合せる顔が御座えやせんので……』

と勘太が云へば、小六がそのあとから

『本當にその節は誠に申譯のねえことを致しやして……』

と、共は語尾を濁ました

『もそつと近く參れ、貴樣達に訪ねたいことがあるのだが』

『ど、どうぞ御辨勘を……』

重々手前共も惡いんで御座えやすから……』

『ただ惡いと申しただけでは篠ッ張り樣子が判らぬ、詳しい話を致せ』

『へえ……』

勘太も小六も、刑部からこう問ひつめられると、何んとも答へる術がなかつた只顔見合せるばかりでいつまでも前膝を掌で撫りながらモヂ／＼して居る

どうした二人の擧動を見て、しらたゞしくなつた刑部が

『何か思惱みを致して居るいぢや、仔細を申せと云ふに、そうして幾代は一體何處に居るのぢや』

と思はず聲を大きくして呶鳴りつけた。

天氣豫報（小名濱測候所發表）
今晩も明日も北東の風晴

一、レンタン
一、豆炭
各種特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス。
電話三一七番
平驛前
阿部石炭店

上原家政婦會
平市紺屋町一一
會主産婆　上原通子
電話二二一番
産婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

銃後の活躍に
フタバの自轉車
歳末奉仕大特賣中
十一日より二十五日まで
超高級〇〇記念號自轉車
奉仕期間中　特價三十八圓
税金のかゝらぬ
小型リヤカー　二十圓より各種
フタバ式大型重量リヤカー
二十五圓五十錢より各種
フタバ商會
平市新川町郵便局前

御歳暮の御進物は
ツルヤの洋品を
便利で重寶な！
鶴屋の商品券を！

◎殿方用品		
最上メリヤス	箱入	95ヨリ
純毛メリヤス	箱入	1.80ヨリ
本ラクダメリヤス	箱入	6.50ヨリ
靴下	半打入	95ヨリ
同	1打入	1.90ヨリ
ワイシヤツ		1.50ヨリ
本絹ネクタイ		1.50……
其の他各種		
◎婦人用品		
最上メリヤス肌着	箱入	85……
純毛メリヤス肌着	箱入	1.60……
純毛襟巻	箱入	1.80……
特長靴下	半打入	3.00……
ヘンドバツク本皮製		2.30……
本毛ショール		4.50……
◎其の他用品		
タオル	箱入	34……
ハンカチーフ	箱入	40……
毛布	1枚物	6.50……
毛布	綿き	
各種石鹸		30……

にツルヤ
平市　電話一四〇

賣特服征出
高島屋の洋服
新柄　背廣　レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

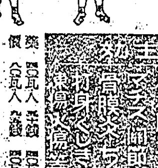
旅舍 大幸館
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄
電話下谷長六七七番
東京上野驛前　下谷郵便局横通角

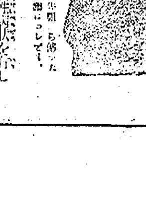
平病院
平市警察署側（元磐城共濟病院跡）（電六四一番）
院主 院長　醫學博士　鈴木定藏
内科　院長　鈴木定藏
小兒科　部長　佐藤幾要司
内臓外科　一般外科　副院長　高橋俊幸
皮膚泌尿器科　レントゲン科　部長　醫學博士　鈴木定藏
物理的療法科　技師　岡田重德
藥劑科　藥劑部長　藥劑師　吉本孝平
◎診療時間　毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）
往診隨時（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備……入院隨時〔自炊ノ便アリ〕
入院料　一日　特等—貳圓　一等—壹圓五拾錢　二等—壹圓參拾錢

シモヤケ家傳藥
（是までシモヤケは暖かくならねば治らぬものと諦めて居つたのが一日二、三回の御使用でクヅれたシモヤケも忘れた樣に治ります。）
現今の塗藥と異り罨法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものではありません、又クヅレタシモヤケに塗藥では塗布と同時に痛みを感じたりカユミを増したり致しますが、此藥は無刺戟の中に心地良い罨法により皮下の血行を良くし幼き御子樣方にも喜ばれて如何にクヅレたシモヤケでも完全に全治致す事保證致します。是非一度御試し下さい。
東京市丸井弘寶堂
福島茨城兩縣特約販賣
伊藤石炭店
平市一丁目　電話三四九番

晝夜診療
外科一般　内臓外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
〔血液檢査毎日〕
イツデモ入院デキマス。
平市新川町〔電四六四〕
醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保

漢方のくすりは
生公華
効力本位





平市專賣店
山野邊藥局
平市五丁目（電呼六六八）

東北の銘釀
特撰 嵐山
山形縣嵐山酒造株式會社釀造
四海に轟く特撰嵐山（トクセンランザン）
平市三丁目
上總屋商店
電話七三一番

祝南京陷落皇軍大勝

やつと昨年の一割弱
時局關係が顯著に反映
昨廿日の年賀郵便特別取扱ひ成績

滿般政府に於て官吏の年賀狀を申合せた事は現下の非常時に處して物資の擁護上極めて重要な事柄で彼の歐洲大戰に精鋭無比の軍隊を擁した獨逸が聯合軍を擊破しながら物資の不足に一敗地に塗れたことを思へば其の重要さが諒解されるのであつて政府の措置は止むを得ない至當の措置と考へられるが、改曆に當つてお互の消息を傳へ無事を祝し合ふ賀狀の交換は從來に新年の景物となつてゐるので、どうしても出さねばならぬ親戚知友間又は營業其の他の必要上差出す年賀狀は相當多數に達すべく平局でも昨二十日から例年通り特別取扱ひを開始したが既往の實況に依ればその差出が極めて短期間に殺到し郵便局の混雜は名狀し難く爲に他の重要通信又は急速を要する通信が遲延するが如きことがあつてはこの非常の秋に於て一大事であるから宛先の遠近により元旦配達に間に合ふ樣特に留意して出來た分から可成早く差出す樣心掛けられたいと、因に昨第一日の取扱ひ數は僅かに六百四十二通で昨年の八千七十二通に比し實に九割二分の減、今年の減り方の大体を察知するに充分なるものがある

新年奉祝の時間
十三年の元旦に際し
縣で精神總動員強調

明けて昭和第十三年の元旦は時局の重大性に鑑み、國民精神總動員の趣旨に則つて堅忍持久、國威を宣揚する國民の覺悟を堅むるためこの日午前十時を『新年奉祝の時間』とし、縣では新年奉祝實施の件を各町村に通牒した

即ち官廳、學校等では奉祝式又は賀祝式を行ふに當つては特に前記の趣旨強調、市町村では當日午前十時を期し神社、學校其他適當なる場所で奉祝式を擧行

なほ午前十時の奉祝の時間には汽笛、サイレン、鐘等によつて周知方法を講ずることになつてゐる

災害復舊工事提案
平土木監督所管內分

十七日の本縣通常縣會本會議に提案された災害復舊土木事業の工事施行個所其後の分左の如し

(括弧內工種)

△道路工事

上小川高崎(土留) 三阪村上三坂字網木(暗渠) 上遠野村染山字田滓(土留) 磐崎村上湯長谷字湯台堂(同) 湯本町笠井(同) 三阪村上三坂字山神(崩落七取除)

△橋梁工事 (國庫補助)

平市平窪中平橋(木造土橋) 鹿島村上藏持字寺內橋(同) 箕輪村高野銅目木橋(同) 田入村入旅へ字栗木橋(同) 荷路夫村水界橋(同)

△橋梁工事 (縣費關係)

鹿島村上藏持字寺內橋

(假橋) 箕輪村高野字銅日木橋(同) 荷路夫村水界橋(同) 田人村入旅人字栗木橋(同)

△河川工事 (國庫補助)

鮫川—植田町下御室(護岸根固) 小玉川—赤井村西小川字平久田(同)

附議十三件
掉尾の平市會

今年度掉尾の平市會は既報の如く明後二十三日午後一時から開かれるが附議事項は左の十三件(一部既報)である

小學校增築起債變更の件 預金部借入資金元利償還期日變更の件 市道認定に關する協定の件 水道使用契約繼續に關する件 區長代理者辭任認定の件 市道區長代理推薦の件 市道認定諮問の件 昭和十一年度平町歲入決算報告の件 同平窪村歲入決算報告の件 昭和十二年度自四至五月平町歲入出決算報告の件 同平窪村歲入出決算報告の件 昭和十一年度特別會計平町基本財産歲入出決算報告の件 昭和十二年度自四月至五月特別會計平町基本財産歲入出決算報告の件

惜しや戰線に病み
郡出身二勇士死す

大浦村出身軍曹坂本誠、渡邊村出身上等兵荒川信義の兩氏は上海戰線で病死した旨今二十一日原隊から發表された

同モチ米二 山田二〇

白衣の勇士轉送

上海戰線で名譽の戰傷を負つた兩角部隊本郡出身の左記三勇士は若松陸軍病院で療養中十九日飯坂分院に轉送された

大野村鈴木榮一少尉 飯野村永山滿上等兵 三阪村內藏守一等兵

磐城訓盲院補助申請

磐城訓盲院では市當局の豫算編成を前にして會長水野虎三郎氏から金五百圓の市費補助申請書を提出した

。神谷村會。 二十四日午前九時から開き追加更正豫算、村道認定(鎌田橋から直通線に至る迂廻線)駐在所改築を附議

あす冬至

あすは冬至——即ち夜の時間の一番長い日であり、この日が過ぎれば晝の一日毎に日はのびて行くと云はれてゐるが寒さはどうしてこれからだ、まだ雪らしい雪さへ降つてゐないし、一日毎に日ののびるのと反對に寒さは日一日と加はつて行くわけお互ひからだにご用心

。平署對磐炭劍道。 平署對磐炭の劍道試合を二十六日午後一時から磐炭演武場に開く

市の木工場地帶異動
將來の保安關係を考慮してか?
佐藤氏は赤井驛前で經營

市內田町の木工場地帶に於ける今後の復舊問題に關しては市將來の保安上多大の關心を以て成り行きを凝視されてゐたが、當の日進室製材部では幾重なる防火壁を設け、從來の場所に於て操業を繼續し、更に佐藤三平氏は心中深く期する處あり赤井驛前に百六十坪の新工場を建設し、今二十一日上棟式を擧行した。佐藤氏の取引地は主として中通り方面なので今後原材の運搬上その他寧ろ新工場地が幾多の便宜あるものと觀られてゐる

經更計劃樹立會

濱通りの縣主催經濟更生計劃樹立會は二十七日午前十時から双葉郡團体事務所に縣成島技師、磯部主事出張の下に開催される

本郡からは左の指定三ヶ村が出席、窓貪は各自携帶との事で云ふこの會ならではの緊張振りである

高久村 川前村 玉川村

けふ俵米共販

今年最終の石城販聯俵米定期共販は今二十一日行はれたが出荷左の如く合計百六十一俵

平四俵 高久八 同等外二八 飯野一 大野九八

剩すは僅かに十日だ
慌しい歳末點景

『37年』のカレンダーも殘るは僅か十一枚、師走もけふから下旬だ。七五三祝ひの晴着賣り出しを終へた商店街はいよ〳〵ストック消化の歳暮賣出し戰術に一步前進、店頭はどこも、こゝもけば〳〵しい大賣出しの裝ひをこらし、街行くチンドンヤの交響樂?もいらだゝしげに、溢れ出るボーナス景氣を當て込んでの忙しさ。銀行、會社のソロバンは『37年の總決算』にはねあがるし、郵便局の賀狀洪水のきり拔け陣容も例年と同じく昨二十日から萬事O・K、年末繁忙朗に際する警察署の防犯陣、それから歲末救貧に乘り出した社會課の檄斷幕等、々。年の瀨のあわただしい行進曲は、あます十日を名殘り惜しげにいよ〳〵高潮して行く

これでこそ日本國民
飜然、惡事を悟つて
國防資金を寄託

永戸村居住某氏は最近惡事をしでかしたがこの時局を深く感じ『罪亡しに……』と金三圓、上小川村消防組では國有林を買ひ受けこれが伐採賣上金五十圓を何れも國防費として平署に寄託

陣中を聽く
(50)

修理し乍らの追擊
今後は面白からう

神谷村出身 神谷源水君 通信

(承前)入間と云ふものは普通ざんな贅澤な事を云つても苦しくなるとどんなものでも食ひ、どんなものでも飲むものです。誠に良い經驗でした。任務は先日申上げた樣に○○○○の○○破壞でしたが。即ち○○○附近に集結した敵を包圍せんが目的で○○隊は敵の背後に廻り○○線○○の橋梁を爆破して附近の退路を斷つべしとの命令だつた命令こそ重大な命令だつたけれども時期が遲くて任務を達し得られなかつた事は殘念でした。先日申上げた通り○○陷落した其日より○○に在つて驛勤務及び○○、○○間の運轉勤務をして十月二十四日迄居りました。丁度一ヶ月です(中略)私達はそのうちでも最前線で活動してゐます。現在ゐる處は○○の一つ手前の驛で○○鎭と云ふ處にゐる。ここには十月二十八日以降今日(十一月三日)もゐる。○○には敵の大軍が集結して居る

本朝十一月三日の明治節の佳日を期して一齊に○○の總攻擊を開始した。この地より○○迄は十五粁あるが物凄い砲聲が轟いて居る 昨日は○○鎭も敵の突爆があつた

私等の任務は○○近く迄の○○占領だが取り敢へず○○驛を占領せねばならないのです。それには○○を修理せねば○○迄乘り込めない狀態です

敵が滅茶々々に破壞して逃げたので修理が容易でない。○○の一番乘りは先づ出來ないだらう。修理し乍ら追擊だから今後の私等の戰鬪は面白い事だらう。元氣で奮鬪しますから心配無用です。氣候は內地よりも暖いね (後略)

十一月三日

立派に働く

一丁目常盤屋方 松本久米造君

——本日は御多忙中にもかゝわらず御書面戴き(略)自分も渡支以來益々士氣旺盛(略)今後は一意全決再び戰線に出動皆々樣の御期待に副ふべく療養相つとめ居り候間何卒當分の間御寛容賜り度く候(略)

再起を期す

市內四丁目出身 園部淸三君通信

——勇躍出動仕り候も不幸武運拙く戰傷の爲め○○○○收容の身と相成り候

お披露日

磯濟から『お鯉』が出現した。ピクともせぬお鯉の意地だが、最初の生きづくりは果して誰がする事やら

二十二日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前七、五〇 後六、三〇 干潮 前一、〇〇

舊十一月二十日 水曜 癸未 赤口 危 壁宿 新十二月二十二日

吉凶判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 惡害は共人を玉となすう ます勉むるが勝ち▲二黑 外の敵より內の亂れを防ぎ協和を謀るべし▲三碧 れ手であはなつかむて失敗 ▲四綠 一家一門同體となりて勵くべし▲五黃 沈着と勇氣を以て就成すべし▲六白 ひくつの券さくは不意に急轉變化が如し萬事進み行ふに善し▲七赤 べう蜜力强くくつせず萬事を處すれば大吉たり▲八白 力を許らず深入すれば後悔ぞ伍なかむに至る▲九紫 大鹹を起す時は八分の成功も二分にするとあり

定評有る大塚の靴
歲末…大賣出し
戰勝の新春に御用意を
紳士靴 七、五〇から
學生靴 女學生靴 六、〇〇から

七五三小供靴 大特賣
平田町銀座通り
大塚
電話七十七番

平市田町
高久病院 (電話五三二番)
內科 外科 小兒科 耳鼻咽喉科 花柳病科 レントゲン科
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽淸 藥劑士 佐竹雄

ニッポン・魚は凍魚
日本水産特約 小賣
(株)平製氷會社 電二三八・三二六番
鯛 エビ 白魚 ワカサギ
甘鯛 マナ鰹 帆立貝 ウニ貝燒
ピンマル凍魚
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。
四丁目 卜印 魚問屋 電五二八番

藥品 百貨
福島縣平市二丁目
西村屋藥舖
藥劑士 鈴木新右工衛門
電話 三番
振替 東京六・二九九 仙臺一・二〇一

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

耳鼻咽喉科專門
平市南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

◎ミシン裁縫科◎
◎洋裁研究科◎
◎ミシン刺繡科◎
◎ミシン洋裁◎
◎生徒募集◎
◆入學ハ毎月隨時ニ之ヲ許ス◆
◆ミシン使用料材料費等不要◆
◆通學寄宿、自炊隨時デス◆
◆入學規則書入學案內進呈◆
外ニ洋裁見習住込生徒 若名
平市田町
シンガー洋裁女學院

磐城の御みやげ品
名物 靈峰羊羹(名産柿煉)
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本 十錢
製造販賣元 小川郷驛前
平屋賣店

職工募集
一、大工 數名
一、雜夫 數名
右至急募集ス
御希望ノ方ハ職業紹介所若シクハ當方ニ御來談有タシ
平市十五丁目
佐藤木工所
電話二五三番